

相性の悪い主治医と患者

「患者さんからの質問：相性悪い主治医変えたい」

「主治医の変更」の問題は、病院の診療体制、病気の治療上の問題、そして一般的な人間関係の三つの側面から考えないといけない問題です。

医者には、各々の得意とする診療分野があります。外科系の医者は特に顕著です。消化器、循環器、内分泌・代謝疾患等々の分野にとどまらず、診断と治療での役割分担を行っている病院もあります。各々の診療分野に層の厚い交代要員、複数の医者を配置しているかどうかは、施設の性格によります。

長期の管理を必要とする安定した病気なのか、特殊な病気で微妙に薬の調整や副作用対策を必要とする病気なのかによっても主治医の変更は慎重にならざるを得ません。最近の診療は、各々の病気の診療ガイドライン（指針）に則って共通の治療法を用いることが多いのですが、医者の微妙な「さじ加減」はあり得ます。

患者さんと医者との人間関係は独特なものがありますが、最近の医療は患者さんの人権（尊厳）が尊重され、納得いく説明と同意のもとに行われるのが大原則です。ですから、主治医に自分自身の希望や悩みを直接にお話することが大切なことですが、それができない場面は確かに多々あります。

病院には相談室（コーナー）が設置されておりますので、遠慮なく相談の場を活用してください。感情的に訴えるのではなく、自分なりに何が問題なのかを明確にしておくことも必要なことです。

沖縄には、「ヤスン（安ん）ジリヨー）」という言葉があります。「ヤスンジリヨー」に続く言葉は、「タンチ（短気）ヤ、ウクスナ（起こすな）ヨー」です。相性の悪さ、理不尽さ、矛盾をも飲み込んでしまう「心」は大切なことだと沖縄の先人は教えています。

参考までに一言。お世辞にも相性が良いとは言えない夫婦も、けん制球の投げ合いで、偏った独断と暴走が避けられ無難に30年余。「相性の良さ」は、必ずしも必要条件ではないのでは？。

医者も患者も、お互いに不完全な人間同士。欠点、短所をも認め合って肉体的にも、精神的にも健康を維持していきたいと思えます。